

ニセコ町まちづくり交付金評価委員会

平成 28 年 2 月 16 日（火）午後 2 時～

ニセコ町役場 2 階 議員控室

参加者：委員（竹内正貴、牧野雅之、水町由理子、葛西奈津子）※順不同敬称略

事務局（黒瀧課長、山崎係長）

委託先（梅田）

1. 開 会

2. あいさつ（黒瀧課長）

- ・ 5 年間の事業総額が 9 億 5 千万円、国が 40%3 億 8 千万円を補助し、残りは起債で 95%カバーされるので、町の持ち出しは、3,000 万円程度となった。なお、起債のうち 70%は交付金で戻るので、償還するのは 1 億 6,300 万円程度になる予定。

3. 委員紹介

- ・ 4 名の委員紹介
- ・ 委員長 北海道大学高等教育推進機構特任准教授 葛西奈津子委員
- ・ 議事進行 委託先の(有)コミュニティ研究所（梅田）

4. 議 事

議事 1：事後評価制度の概要説明

- 事務局より説明（別紙資料／設置要綱、評価の手引き、スケジュール、実施要領）

議事 2：当該地区におけるまちづくりの経緯説明

- 事務局より説明（パワーポイントによる）
- ◎ 委員：体育館のボイラーをヒートポンプにしなかったのは、どのような理由か？
- 事務局：事業計画時に、担当者から事業対象としての提案がなかった。
- ◎ 委員：町民センターのヒートポンプも、事業対象か？ そうであれば実施報告に含めるべきでは。
- 事務局：町民センターのヒートポンプ導入は事業対象である。
- ◎ 委員：体育館は、使いやすくなった。いろんなスポーツ大会もできるようになったし、明るいイメージになった。

議事 3：事後評価手続き等にかかる審議

(1) 方法書について

- 事務局より説明（別紙資料／方法書）
- ◎ 委員：コンベンション利用者数の推計の中で、年次によってイベントが異なることによるばらつきの影響はないのか？
- 事務局：常にそれなりの規模のイベントがあるので、年次によって大きなばらつきがあるとは考えていない。むしろ、利用者数は申し込み人数ベースなので、実際にはそれ以上の利用者数になっていると思われる。このように、数値で把握しきれない利用状況等については、

定性的評価として記載したい。

(2) 成果の評価について

- 事務局より説明（別紙資料／1-①・②、2-①・②）
- ◎ 委員：今回追加設定した指標3「のアンケート項目の方が、指標3より妥当性が高いと思うので、最初からこの項目を設定すれば良かったのに、と思うが、指標3として、今回使用したアンケート項目は、当初から既に設定してあったのか。変更はできなかったのか。
- 事務局：確かに指標3「の方がぴったりすると、今は思うが、設定当初の指標を今回代えるわけにはいかないで、「その他の数値指標」として補った。
- ◎ 委員：情報共有に関して使用したアンケート項目には「ラジオ」の文字がないが、「光通信網など」の解釈に含めるには、やや無理を感じる。
- 事務局：「ラジオ」の文字があったら、評価は50を超えていたかもしれない。
- ◎ 委員：ラジオが受信しにくい地域は、スポット的に町内のあちこちにある。
- ◎ 委員：ラジオ端末の申し込みや導入状況の実態調査を行ってはどうか？
- 事務局：地デジも、地域によっては受信状況の悪いところがあった。特に、西富地区に多かったが、最近は、改善されていると思う。FMラジオニセコ導入以降の通信状態がどうなのか、まだ、全町的な調査は行っていない。
- ◎ 委員：スマホ、PCなどでも聞けるようになっている。SNSなどで知らせる仕組み、補助的に必要だ。
- 事務局：防災通信が基本なので、家庭のラジオやカーラジオなどではなく、強制的に避難情報などを流せる端末でないといけませんが、スマホ、PCでも聞けることをもっとPRすべきかもしれない。SNSの仕組みも検討すべきかもしれない。
- ◎ 委員：災害があった時はラジオが頼りなので、その点では安心できるが、通信網としてはもっと強化したほうが良い。
- ◎ 委員：コンベンションホールの大ホール程度の規模では、大きな会議等の開催ができない。「大規模」は取ったほうがいい。
また、LEDについては、有島3地区では、照明による夜間の安全確保の観点より、明るすぎて星空が見えにくくなる、と言った環境面からの批判が多く、必ずしも、LEDの導入が生活空間の高品質化にとって評価できるとは限らない。地域による違いがあるのではないか。また、LED防犯灯の器具のデザインが、良いとは言えない。
- ◎ 委員：LEDの器具のデザインまでは特注が無理でも、カラーリングをニセコらしい特色にしても良かったのではないか。
LEDの照明が、犯罪意識を低減するという研究結果が報道されていたが、そのような効果発現もあるだろう。
- ◎ 委員：吹雪の時など、登校下校時の子どもたちにとって、LEDは安心を与える。
- ◎ 委員：ニセコの場合、星空が見えるという環境面より、町の多くの地域では、安全・安心の方が、まだまだ優先度は高いのではないか。犯罪が少ない田舎のまちだからこそ、LEDは安全な街路歩行に寄与する筈だ。
- ◎ 委員：町民センターの利用料金の仕組が、センター運営のコストパフォーマンスを低下させている側面がある。また、今後は、町民センター以外の会議施設等の利用料金とのバランスも考慮する必要がある。

(3) 実施過程の評価について

● 事務局より説明（別紙資料／3-①・②・③）

◎ 委員：良いと思う。

◎ 委員：倉庫群活用の運営について、NPOに担ってもらう事を決める前に、もっと住民で議論しても良かったのではないか。この駅前空間にある様々な施設や空間やプロジェクト、イベントなどを、個別で検討するだけでなく、全体として検討し構想を描き、それに沿って進めるべきだったと思う。その観点から、これまでのプロセスについて、評価できない面もある。

○事務局：今後のまちづくりに繋がっていく指摘だと思う。

（4）効果発現要因について

● 事務局より説明（別紙資料／4-①・②・③）

◎ 委員：ラジオが聴きにくい難聴地域に対する対策は、しっかりと行ってほしい。

◎ 委員：LEDの電気料金は、東山町内会の場合、以前の三分の一程度にまで減っている。これも、大きな効果だ。

◎ 委員：町内会で導入したLEDもあって、電気料金の全般的低減に貢献している。これは、間接的に、コミュニティ活動にも良い波及効果を与えていくはずだ。

◎ 委員：交通信号のLEDは雪をかぶっても溶けないので見えにくくなっているところもあるが、防犯灯の場合はそのような事はないのか？

○事務局：照明部分に直接雪がかぶる事のないような、デザインになっている。

◎ 委員：LEDには、虫が集まりにくい効果もあるようだ。かつてのように、マイマイガが大量に照明の周りに集まる事もないと思う。これも、効果のひとつだろう。

◎ 委員：西富など、ラジオの難聴地区は解消したのか？

○事務局：アンテナなどを補強した事で、西富地区では解消されたが、他の地区でもピンポイントで難聴地区が存在しているようなので、多様な側面からこの問題の改善について検討する必要があると感じた。

（5）事後評価原案の公表について

● 事務局より説明（別紙資料／7）

◎ 委員：そよ風メールは、今回の告知手段としては使わなかったのか。

○事務局：今回は使わなかったが、次回機会がある時は、そよ風メールも使いたいと思う。

◎ 委員：町広報は、間に合わなかったのか？

○事務局：原稿締め切りのタイミングなどに合わなかったため、今回は使用しなかった。今後の機会には、町広報も活用するようにしていきたい。

議事4：今後のまちづくりについて審議

（1）今後のまちづくり方策について

● 事務局より説明（別紙資料／5-①・②・③）

◎ 委員：コンベンションセンターの断熱性能改善工事が行われているが、一昨年ニセコ町で講演された村上敦さんの評価によると、ドイツの水準に照らせば、まったく評価できるレベルに達していないとの事だった。コンベンションセンターは、規模は小さくても、エコ建築として手本となるような水準をめざし、環境関連の会議を誘致できる施設にしていくべきだ。

○事務局：中途半端であるという指摘に、耳が痛い。

◎ 委員：ラジオニセコも、運営方法や番組内容について、さらに水準を高める必要がある。

◎ 委員：倉庫群の運営についても、第二町民センター的な集会施設としての活用について、

そのあり方を考えるべき。利用料金の全町的なバランスも必要だろう。

- ◎ 委員：あそぶっくも、利用状況から言ってもう手狭なので、今後、あそぶっくの周辺施設と一体の空間として、エリアの構想を描いて、ハードも含め、将来に向けて再検討した方が良い。そのためには、施設の運営の方法も含めて、町民による検討議論に十分な期間をかけて、詰めていく必要がある。

(2) フォローアップ計画について

● 事務局より説明（別紙資料／5-④）

- ◎ 委員：この評価委員会は、今回1回限りだと思うが、たとえば中央倉庫群の今後についてなど、大きな個別のプロジェクトについては、別途評価を行う機会はないのか？
- 事務局：個別の大きなプロジェクトごとの評価については、どうするかまだ決めていないが、場合によっては、検証する機会が必要かもしれない。
- ◎ 委員：大きな投資をしたプロジェクトなので、費用対効果など効果についての評価は必要と思う。各プロジェクトが、今後変な方向に行っても困るので、検証の場があると良い。
- 事務局：今後は、検証期間も十分取って進めていきたい。グランドデザインのような全体的な構想は、現課からはなかなか提案できないが、個別プロジェクトについての評価方法を検討していきたい。
- 事務局：個々のプロジェクトについての検証と評価を今後行えるような仕組みを検討するという観点から、エリア全体の今後に向けたグランドデザインを展望する、という可能性に期待する事で、今日の議論を受け止めたい。

5. 評価委員会後のスケジュール

● 事務局より説明

- ◎ 委員：最終報告書は、どのような形になるのか。
- 事務局：定められたフォームの中にまとめる事になる。また、会議録については概要をまとめた形で作成するが、案ができた段階で、委員みなさんの添削をお願いしたい。最終的には、発言者名等の入らない要約版として、町のホームページに掲載する予定だ。

6. 閉 会

- 事務局：予定時間を大幅に越えて、活発な議論とご意見をいただいた。感謝したい。

以上